

DOCUMENT EYE

155

後部座席のシートベルト 着用状況は？

WHY

2002年10月、警察庁とJAFとの合同による「シートベルト着用状況全国調査」が実施された。その結果、一般自動車道では運転者88・1%、助手席同乗者75・2%とそれぞれ8割前後がシートベルトを着用していたものの、後部座席同乗者はわずか6・7%と、着用率が1割にも満たないことが明らかになった。後部座席は、シートベルトが標準装備され



観察地点 / 東京都世田谷区野毛3丁目周辺 第三京浜・東京側出入口付近
観察日 / 11月23日(土曜日)
天候 / くもり
観察時間 / 11:15 ~ 12:15
観察者 / 4名



写真右上 / 後部座席に座る大人のシートベルト着用者は極めて少ない
写真左下 / 今回の観察で、チャイルドシート使用率は9割を超えている

ているにもかかわらず、着用の義務づけがないため、着用率は極めて少ないようだ。土曜日の昼時、自動車専用道路の出入口付近で、その実態を観察した。

後部座席のシートベルト着用状況を観察する 347名中23名

WATCHING

後部座席の大人のシートベルト 着用者260名中わずか10名

観察を行なったのは、東京と横浜を結ぶ第三京浜(自動車専用道路/有料)の東京側出入口。休日の観察ということで、子どもや高齢者が後部座席に乘車しているクルマを数多く見かけた。

1時間の観察の結果、後部座席に同乗者がいたクルマは281台、後部座席同乗者は414名(大人260名・小学生87名・幼児67名)だった。

後部座席におけるシートベルトの着用状況だが、大人260名中、シートベルトの着用者はわずか10名(3・8%)。小学生は87名中13名(14・9%)に過ぎなかった。

大人のシートベルト着用者10名中、6名が30歳前後とみられる母親らしき女性だった。後部座席のチャイルドシートに幼児を座らせ、その隣にシートベルトを着用して座っていた。高齢者でシートベルトを着用していたのは1名のみ。40代とみられる男性が運転するクルマの後部座席に座っていた高齢の母親らしき女性で、シートベルトを着用して気持ちよさそうに眠っていたのが印象的だった。

幼児のチャイルドシート使用についてだが、67名中61名(91・0%)がチャイルドシートを使用していた。

前席の同乗者の安全を守るためにも 必ずシートベルトを着用しよう

観察の結果、後部座席でのシートベルト着用率は極めて低いことがわかった。

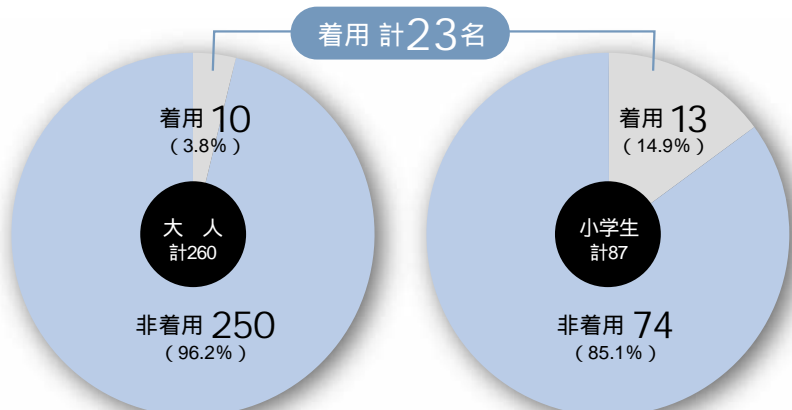
後部座席でシートベルトを着用しないと、ガラスを突き破って車外に放出されるなど大変危険であることは間違いない。車外放出されなくても、事故の衝撃によって、前方に飛ばされ、運転席や助手席に激突してしまう。その結果、シートベルトをしていなかった後部乗員だけでなく、前席の同乗者も後ろから押されてシートの上に挟み込まれるなど、相当な被害が及ぶ。体重60kgの人が時速40kmで固いコンクリートの壁に正面衝突すると、その衝撃は約1・8tにもなる。これを人間の力で支えることは不可能なはずだ。

クルマに乗るとき、同乗者を乗せるときは、どこに座っても「必ずシートベルトを着用する」ことを徹底したい。それは、自分の命を守るだけでなく、相手の命と安全を守ることになるのである。

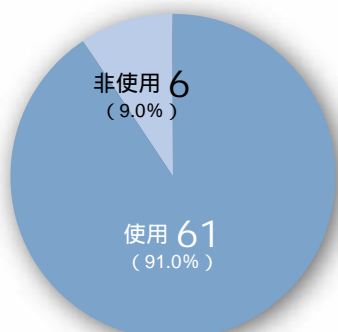
クルマに乗るとき、同乗者を乗せるときは、どこに座っても「必ずシートベルトを着用する」ことを徹底したい。それは、自分の命を守るだけでなく、相手の命と安全を守ることになるのである。



後部座席のシートベルト着用状況(総台数281台、後部座席同乗者414名)



幼児(チャイルドシート)計67



「大人」「小学生」「幼児」の区分は観察者の見解
1時間のうちに観察ができたものについて記載

後部座席に乗客のいるタクシーを3台観察したが、いずれもシートベルトは着用していなかった